

平成26年度学力向上アプローチ事業 研究指定校のまとめ

学校名 (生徒数)	栗東市立栗東中学校 (692人)
--------------	------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：滋賀県栗東市安養寺六丁目6番15号

電話番号：077-552-4359

【研究の目的, 研究内容】

(1) 全国学力・学習状況調査の結果から見た課題

- ・国語ではB(活用)問題に多く課題が見られる。問題形式別に見ると、「記述式」で解答する問題の正答率が低く、無解答率が非常に高い傾向が見られる。「記述式問題に何をどう書いてよいかわからない。考える前にあきらめてしまう。」という傾向がみられる。
- ・とくに「書くこと」に関する問題に多くの課題が見られる。具体的には「根拠を明確にして自分の考えを書く」や「事実や事柄が明確に伝わるように書く」などの問題の正答率が非常に低い傾向にある。また、「読むこと」に関する問題においても、長文を読み解く問題の正答率は非常に低い傾向がある。
- ・生徒質問紙の結果は、5つの視点から見ると、「豊かな心」「体験活動」「生活習慣」「学習意欲」は、全国平均とほぼ同じ値を示し、大きな課題は感じられないものの、「学習習慣」だけは大きく落ち込んでいる。

(2) 課題解決に向けた改善策

本校では校内研究として「全校で取り組む学力向上」をテーマに、多面的な取り組みを進めている。①学習態勢づくり(心の教育)、②授業づくり(授業改善)、③学び場づくり(学習規律)、という3つの側面から、学習時間の増大と学力向上を目指している。

その中で、②の授業づくりとして、国語科では評価問題の作成を通して、授業改善の方法を研究することで「根拠を明確にして自分の考えを書く力や、長文を読み解いて事実や事柄が明確に伝わるように書く力」などの向上を目指している。

また、全校の取り組みとして、下の10の取り組みを推進している。

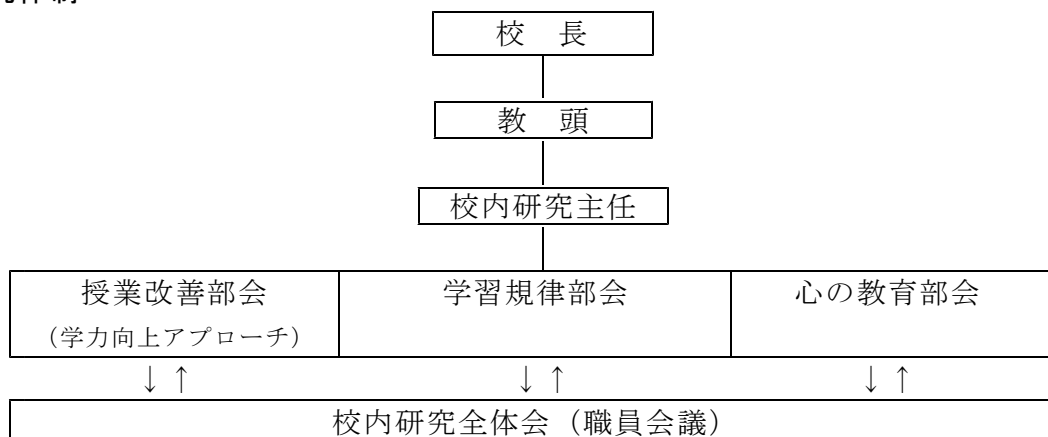
- ①授業のはじめ(はじめと終わりの号令「起立」「礼」「着席」の徹底)
- ②ベル着(チャイムが鳴ったらすぐに着席)
- ③家庭学習(学年×10分+10分の実施)

→学習チャレンジ14の取り組み

- ④朝読書(10分読書の実施で家読習慣の醸成)
- ⑤あいさつ(心のつながり、地域とのつながりづくり)
- ⑥掃除(汗して働く児童生徒の育成)
- ⑦本時のめあての表示(学習のねらいに迫る学習課題の設定)
- ⑧学習振り返りの場の設定(次の時間につながる授業評価等の工夫)
- ⑨ノート指導(授業の足跡が残るノート)
- ⑩校区教員の交流(情報交換、出前授業の実施)



(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取り組みの経過

時期	取り組み内容
4月	全国学力学習状況調査の自校採点 授業改善の取り組み
5月	全教職員が全国・学力学習調査を解答し、ねらいを確認
6月	定期テスト問題の工夫
7月	授業改善の取り組み
8月	研究授業の実施に向けた検討
9月	授業改善の取り組み
10月	研究授業の実施に向けた検討 定期テスト問題の工夫
11月	研究授業の実施、校内全体研修会 定期テスト問題の工夫
12月	授業改善の取り組み
1月	評価問題の実施、採点と分析・2年模擬テスト実施、採点と分析

(5) 具体的な研究内容・方法、研究を進める上での工夫点等

「根拠を明確にして自分の考えを書く」や「事実や事柄が明確に伝わるように書く」など「記述問題に何をどう書いてよいかわからない。考える前にあきらめてしまう。」などを克服するために国語科では次のような授業改善に取り組んだ。

1年

定期テスト問題の工夫・授業改善

「ちょっと立ち止まって」では、教科書に載っているもの以外の絵を使って、見方によって違うものが見えることを説明する文章を書く活動や、定期テストに学んだことを別の題材に活用して答える出題をした。

また、ふり返りカードを取り入れ、毎時間、本時のめあてにどの程度迫れたかについて書くようにした。

2年

「字のない葉書」リライト

娘の目から見た家族の出来事を描いた作品を、「父」の立場からの心情を考え文章にリライトした。

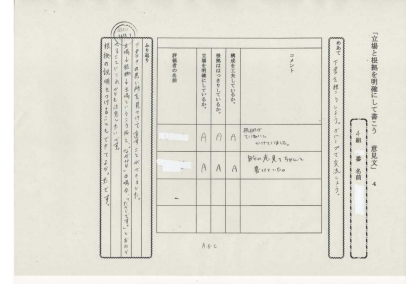
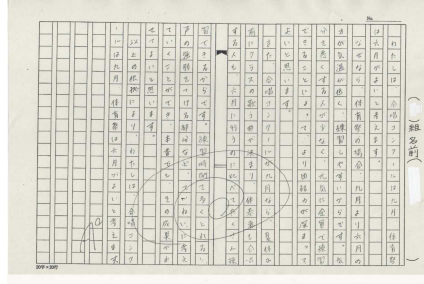
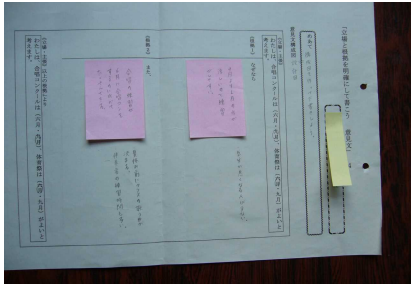
テスト問題の工夫

1学期末の定期テストからは毎回、授業で学んだことを活用して答える問題を出題するようにした。



立場と根拠を明確にして書こう 意見文

つけたい力を「立場と根拠を明確にして自分の考えが書ける」として、2学期期末テストの問題を作った。電車等の優先座席は必要かについて、根拠を明確にして、自分の意見を書く問題である。授業では、体育祭と合唱コンクールの開催時期についてをテーマとし、根拠となる事実を明確に挙げて自分の主張を述べることを、構想図を使って取り組んだ。途中でグループでの交流を取り入れるようにした。



「モアイは語る」事実と意見、根拠と主張を見つけよう

「モアイは語る」では、筆者の主張が根拠である事実を支えられているという観点で読み、意見文の学習につなげた。

「平家物語」人物の行動に自分の考えを持とう

登場人物の行動や、気持ちについて共感するかしないかについて考えを書いた。自分が部活動で体験したことを思い出し、根拠にして意見を書く生徒もいた。

チャレンジ新聞を作ろう

総合学習と連携し、チャレンジウイーク（職場体験）のまとめとして、個人新聞を作った。昨年、1年生のときには班での壁新聞の作成であったが、2年生では個人新聞に取り組んだ。3年

登場人物になって鼎談をする

小説「故郷」では、単元を貫く言語活動として「鼎談」を位置づけた。

「故郷」の過去・現在・未来を「故郷」の登場人物が語る鼎談

各登場人物から見た、過去の「故郷」、現在の「故郷」、未来の「故郷」をグループに分かれて語った。

登場人物の三人になって話し合う場面を、クラスの他の生徒達の前で発表するという活動に向けて、視点を変えて「故郷」を読み深めた。

研究授業として公開した。

【研究成果と課題】

(1) 研究成果

① 2年国語テスト結果について

11月の「立場と根拠を明確にして書こう 意見文を書く」の授業の後に行った期末テストと、中間テストとを、作文の問題について結果を比較したところ、以下のような結果となった。

	無解答の生徒数
中間テスト	19人
期末テスト	5人

(2年4クラスでの結果)

この結果から、「初めからあきらめて、取り組もうとしない」生徒の数が減ったことは、一定評価できる。ただし、正答の生徒数が増加することはない、まだまだ課題が残る。

3年生で実施した「故郷」の評価問題の記述式問題である設問三（文を読み比べて、表現の仕方について評価し、根拠を明確にして自分の考えを書くことができるかを見る。）の結果についてみると、次のようであった。

正答	59.6%
誤答	33.2%
無解答	7.2%

半数以上の生徒が正しく答えられ、また、何も書かない無答の生徒の数は少なかった。これは授業の改善に努めた成果ではないかと考えられる。

また、国語だけでなく他の教科でも、レポートの作成や、自分の考えや意見を書く活動を授業の中で行ったり、テスト問題に長文読解問題・記述式問題、思考力を問う問題を増やすなど多くの取り組みがされた成果でもある。

(2)課題等

自校では、朝読書を本年度より全校で取り組み、文章を読むことに抵抗を示す生徒は減少してきた。また、「根拠を明確にして自分の考えを書く」ことについての意欲は、少しずつ向上しつつある。しかし、文章を読んだり資料を見たりして正しくとらえ、考えて書く力を伸ばすまでにはまだ至っていない。そこで、国語科として、①意欲と達成感を高める「めあての提示と振り返りの記述」②文章や資料を正しくとらえる経験を豊富にする「授業改善」③そうした授業改善を反映した「テスト問題の工夫」の3点に取り組み、他の全校的な取り組みとともに学力向上を目指したい。